

承認	議長	副議長	事務局長	総括参事	合議	担当

様式第 1 号

令和 5 年 5 月 19 日

真庭市議会

議長 小 田 康 文様

真庭市議会議員 庄 司 史



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 早稲田大学大隈記念講堂
〒169-0071 東京都新宿区戸塚町 1-1 0 4

3 内 容 ローカルマニフェスト推進連盟が主催する
全国地方議会サミット2023に参加し、研修する
内容：デジタルで変わる自治体・政策、オンラインとデジタルを活かす、デジタルが拓く新しい民主主義、政策議会の一般質査と議選監査委員を活かす
政策に強い議会をつくる

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要



(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

全国地方議会サミット 2023 参加者名簿

提出日：令和 5 年 5 月 19 日

1 庄司史郎

2 大月説子

3 森田敏久

4 小田康文

5 伊賀基之

6 黒川 愛

研修日程

2023年 7月5日

出発/到着

出発/到着	日付	時刻	交通機関	フライト番号ほか	出発地 到着地	備 考
出発	2023年7月5日	8:15	クルマ	岡山道経由	真庭市	落合総合センター駐車場
				60min. 59.6km		
到着		9:15			岡山空港	
出発		9:55	ANA	NH654	岡山空港	
到着		11:10			羽田空港	
出発		11:23	京急	エアポート特快 成田行き	羽田空港	
				50min.		日本橋乗り換え
到着		12:13			早稲田	東京メトロ東西線 中野行き
		12:13	徒歩		早稲田	東京都新宿区戸塚町 1-104
				10min. 450m		03-5285-3015
		12:23			早稲田大学	大隈記念講堂
昼食		12:25		昼 食		
		13:00				
				研修		全国地方議会サミット2023
		18:00				
		18:24	徒歩		早稲田大学	大隈記念講堂
				7min. 450m		
		18:31			早稲田	東京メトロ東西線
出発		18:31	地下鉄		早稲田	
						東京メトロ東西線 京葉勝田台行き
到着		18:35			飯田橋	
出発		18:28	徒歩		飯田橋	
				2min. 150m		
到着		18:35			アパホテル飯田橋駅前	A5出回
						アパホテル飯田橋駅前
宿泊		18:35		チェックイン		東京都千代田区飯田橋3-4-6
						03-3511-8311
		19:30				個室北国炉端 ときしらず飯田橋駅前
				夕食		東京都千代田区飯田橋4丁目9-8 大和ビル 5F
		21:00				050-5815-0566

出発/到着

出発/到着	日付	時刻	交通機関	フライト番号ほか	出発地 到着地	備 考
出発	2023年7月6日	9:15	地下鉄		飯田橋	
				4min.		東京メトロ東西線 中野行き
到着		9:19			早稲田	A5出口
出発		9:19	徒歩		早稲田	大隈記念講堂
				7min.450m		
到着		9:26			早稲田大学	東京メトロ東西線
		10:00				全国地方議会サミット2023
			研修			大隈記念講堂
		16:00				
出発		16:18	地下鉄	東京メトロ東西線 西船橋行き	早稲田	
到着		16:31			日本橋	
出発		16:40	地下鉄	都営浅草線三崎口行き	日本橋	
到着		16:47			大門	
出発		17:00	モノレール	東京モノレール	浜松町	
到着		17:18			羽田空港第三ターミナル	
出発		18:00	ANA	NH657	羽田空港	
到着		19:15			岡山空港	
出発		19:25	クルマ	岡山道経由	岡山空港	
				60min. 59.6km		
到着		20:25			岡山空港	落合総合センター駐車場

全国地方議会 サミット 2023

07.05&06 早稲田大学大隈講堂

北川 正恭
元 三重県知事

河野 太郎
デジタル大臣

土山 希美枝
法政大学 教授

廣瀬 克哉
法政大学 総長

片山 善博
元 総務大臣

江藤 俊昭
大正大学 教授

変わる社会・デジタル・あたらしい民主

～激変する時代に対応する社会基盤としての議会を実装する～

コロナ禍で進んだ生活様式の変容、人口構成の変化による公共サービスの危機、

凄まじいスピードで進化する生成AIなどデジタル技術の革新、

「地方分権」「マニフェスト」20年を経た、あたらしい民主主義の再定義——。

私たち地方議会は、こうした激変する時代にいかに立ち向かい、対応するのか。

地方議会こそが社会の激変に的確に対応し、地方から国を変えていくという決意のもと、

今年も早稲田大学大隈講堂で「全国地方議会サミット」を開催します。

専門家や当事者の議論に加え、各地の議会から事例紹介も交えて大いに提起します。

全国各地からのご参加をお待ちしております。

7/5 WED 13:00-18:00

基調講演

激変する時代に対応する議会を
実装せよ

早稲田大学 名誉教授、元三重県知事 北川 正恭

デジタルで変わる自治体・政策

マイナンバーカード交付率9割超え
都城市のデジタル戦略

都城市 総合政策部デジタル統括課 佐藤 泰格

全国初 県内全77市町村との
協働電子図書館「デジとしよ信州」

県立長野図書館長 森 いづみ

オンラインとデジタルを活かす

議会デジタル化の必要性
ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか

東北大学大学院 准教授
都道府県議会デジタル化専門委員会 河村 和徳

デジタルで変わる市民と議会
まちだん宮崎県議会DX実証実験より

Gcomホールディングス株式会社
まちだん担当 財前 貴玄

デジタルが拓くあたらしい民主主義

Society5.0時代の
あたらしい民主主義

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健

特別講演

デジタルで変わる社会
地方と議会への期待

デジタル大臣 河野 太郎

ChatGPTの自治体活用実証
横須賀市のデジタル戦略

横須賀市 デジタル・ガバメント推進室 寒川 孝之

デジタル図書館と
アクセシブルライブラリー

株式会社メディアドック 電子図書館推進センター 林 剛史

デジタル・オンライン活用最前線
AI活用による議会の視覚化と市民参画

取手市議会 議長 金澤 克仁

つくば市が取り組む選挙DX
インターネット投票実証実験より

つくば市長 五十嵐 立青

7/6 THU 10:00-16:00
途中昼食休憩あり

鼎談

地方分権の20年と
これからの10年を展望する

早稲田大学 名誉教授、元三重県知事 北川 正恭

大正大学 教授、元総務大臣 片山 善博

法政大学 総長 廣瀬 克哉

自治体監査と議選監査委員を活かす

政策サイクルと
政策財務

大正大学 教授 江藤 俊昭

議選監査委員を活かす

あきる野市議会議員、議選監査委員 子龍 敏人

政策につよい議会をつくる

政策決議提案とガイドライン

貴州市議会 議長 菅原 由和

政策議会の一般質問

一般質問を
議会の政策資源にするシクミ

法政大学 教授 土山 希美枝
実践議会 北海道鹿角町議会 ほか

監査委員との連携
自治体監査・議選監査の活かし方

議会市監査委員事務局 谷川 宏

議選監査委員の活かし方
行政のかかりつけ

可児市議会議員、議選監査委員 川上 文浩

議会における政策づくりと
政策財務

関東学院大学 教授 津経石 昭彦

※ プログラムは現時点の予定であり、変更になる可能性があります。

全国地方議会サミット2023

検索

<https://maniken.jp/summit/>



終了後意見交換会(先着150名様、参加費4,000円程度、要申込)

日時 | Day1 | 2023年7月5日(水)13:00-18:00
| Day2 | 7月6日(木)10:00-16:00

会場 | 早稲田大学大隈記念講堂(大講堂)
〒169-0071 東京都新宿区戸塚町1-104
オンライン配信あり(Zoomミーティング)
事前にお申し込み頂いた方に限り後日アーカイブ配信をご覧いただけます

対象 | 議員、議会事務局・自治体職員、市民等

定員 | 会場 | 先着1000名様 | オンライン | 定員無し

参加費

| 議員 | 10,000円
| 一般 | 5,000円 (いずれも税込、2日間を通しての金額です。)

申込方法

ウェブもしくは裏面のFAX申込書より 期日:2023年6月30日(金)

主催者

| 主催 | ローカル・マニフェスト推進連盟 マニフェスト大賞実行委員会
| 共催 | 早稲田大学マニフェスト研究所
| 後援 | 全国市議会連合会 全国町村議会連合会

問合先

| 電話 | 03-6709-6739 | メール | mani@maniken.jp
事務局 早稲田大学マニフェスト研究所(亀井、山内)

主催

ローカル・マニフェスト推進連盟



Manifesto Awards

共催

早稲田大学
マニフェスト研究所



全国市議会連合会
National Association of Chairpersons of City Councils

後援



全国町村議会連合会
National Association of Chairpersons of Village Councils



全国地方議会サミット2023参加申込書(FAX専用)

参加日
※必須 ☐ 両日 (7月5日・6日)
☐ Day1 (7月5日) のみ
☐ Day2 (7月6日) のみ

参加方法
※必須 ☐ 会場 (先着1000名様)
☐ オンライン (定員無し)

参加人数 議員 (10,000円/人) : 名様

参加人数 議員以外 (5,000円/人) : 名様

参加者氏名 (ふりがな、
所属) ※別紙可
※必須
参加される方全員の氏名、
ふりがな、所属を記入してく
ださい。

意見交換会
参加者氏名 (ふりがな、
所属) ※別紙可
※必須
参加される方全員の氏名、
ふりがな、所属を記入してく
ださい。
※参加しない場合未記入

(Day1(7月5日) 終了後に意見交換会 (先着150名様定員/参加費4,000円程度*当日現金払いのみ)
を予定しています。

電話番号
※必須

メールアドレス
※必須

【注意】こちらに記入のアドレス宛に当日のご案内等を送付します。参加者が複数名で、皆様個別
にご案内が必要な場合は、氏名と合わせて全員分のメールアドレスを記入してください (別紙可)。

▼ 参加申込書を受領後、事務局より「請求書」を送付します。請求書発行に必要な事項を記入してください。

送付方法 ※必須 ☐ 電子データ (PDF) ☐ 原本郵送 (別途500円の手数料を申し受けます)

請求書お宛名 ※必須 様

請求書但書・日付

【注意】原則として、但し書は「全国地方議会サミット2023 (7月5日・6日開催) 参加費として」/日付は請求書発行日を記載します。別
に指定がある場合のみご相談ください。

ご住所 〒 様
※必須 住所 : 御担当者名 : 様

※上記御担当者様の電話番号 :

メールアドレス :



報 告 書

令和5年7月20日

真庭市議会議長

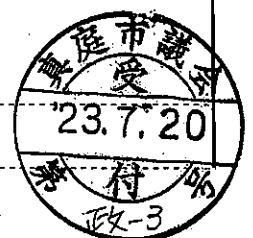
殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 庄 司 史 郎



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和 5 年 7 月 5 日 (午前・午後) 13 時 00 分 至 令和 5 年 7 月 6 日 (午前・午後) 16 時 00 分
2	場 所	早稲田大学大隅講堂
3	用 件	全国地方議会サミット2023
4	概 要	13:00 開会 (7月5日の概要) 13:08 基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事 テーマ「激動する時代に対応する議会を実装せよ」  13:30 特別講演 河野太郎 デジタル大臣



テーマ「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」

13:50 セッション「デジタルで変わる自治体・政策」

佐藤泰格 都城市総合政策部デジタル統括課

「マイナンバーカード交付率9割越え 都城市のデジタル戦略」

寒川孝之 横須賀市デジタル・ガバナンス推進室

「ChatGPT自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」

森いずみ 県立長野図書館長

「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館『デジ図書館信州』」

林剛史 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター

「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」



15:25 セッション「オンラインとデジタルを活かす」

河村和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

「議会デジタル化の必要性ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか」

金澤克仁 取手市議会議長

「デジタル・オンライン活用最前線AI活用による議会の視覚化と市民参画」

財前貴玄 Gromホールディングスまちだん担当

「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会DX実証実験より」

16:45 セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「Society5.0時代の新しい民主主義」

五十嵐立青 つくば市長

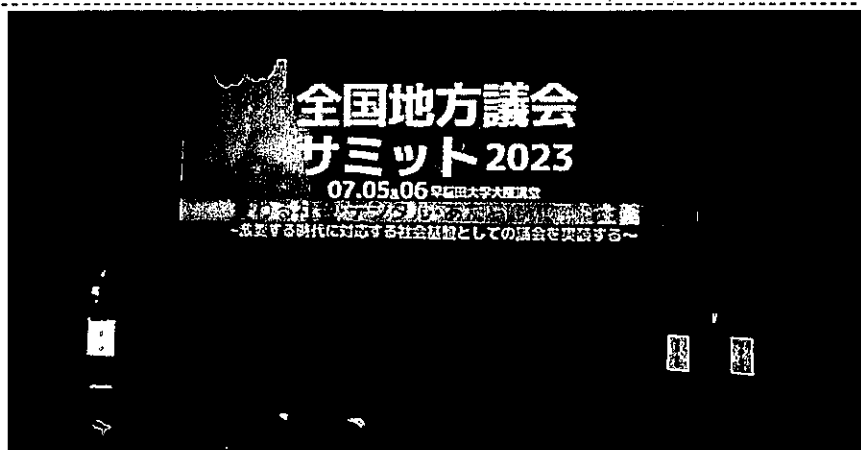
「つくば市が取り組む選挙DXインターネット投票実証実験より」

山本直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長

「選挙後（無投票選挙）も選挙公報を有権者へ届ける取り組み」

川久保皆実 つくば市議会議員

「新しいスタイルの選挙運動を全国に！『選挙チェンジチャレンジの会』の取り組み」



18:00 閉会

4 概要（7月6日）

10:00 開会

10:02 鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

北川正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事

片山善博 大正大学教授 元総務大臣

廣瀬克哉 法政大学総長



11:05 セッション「政策議会の一般質問」

土山希美枝 法政大学教授

西原 浩 別海町議会議員

青野 敏

片山兵衛 鷹栖町議会議員

全国地方議会サミット2023

一般質問を議会の
政策資源にするシクミ
法政大学 土山希美枝



土山希美枝

13:05 セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」

江藤俊昭 大正大学教授

「政策サイクルと政策財務」

川上文浩 可児市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」

谷川 宏 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長

「缶さ事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」

子籠敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員を活かす」

14:40 セッション「政策つよい議会をつくる」

菅原由和 奥州市議会議員

「政策決議提案とガイドライン」

清水克士 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」

津軽石昭彦 関東学院大学教授

「議会における政策づくりと政策法務」

15:45 宣言・総括

16:00 閉会

全国地方議会サミット2023

【第1日目】

セッション「デジタルで変わる自治体・政策」

県立長野図書館長森いずみ氏からの県内全77市町村との共同電子図書館「デジとしよ信州」の紹介があった。これから益々進んでくるであろうデジタル社会において、県を含めて検討すべき価値ある取り組みであると思った。

セッション「オンラインとデジタルを活かす」

デジタル社会の中で、地方議会においてはどのようなことを考え、どう取り組んでいくのかということが、これからの課題。

市民から負託を受けた議会の使命は、市民福祉の向上に他ならない。したがって、デジタル活用も市民福祉の向上に寄与するものでないと意味がない。

真庭市議会においても、デジタル・オンラインの活用、ChatGTPなどの生成AIなど利活用についても、議論し検討していかなければならない。

【第2日目】

鼎談「地方分権の20年とこれからの10年」

午前中の北川正恭氏、片山善博氏、廣瀬克哉氏の三氏の講演の中で、片山善博氏の言われた、行政の政策の実行決定は議会が決定する、議会の権限。したがって、結果についても責任があるんだという自覚をもって。首長も万能ではない、間違ふこともある。市民の身近にいて、市民の声を沢山聴いている議員・議会が決定する。良いものは良いでいいが、悪いものは悪いで否決すればよい。というような内容であったと思う。

真庭市議会においても、議論をしっかりと行い、修正や否決があってもよい。むしろそのような姿こそ健全な議会であると言えると思う。

いたずらに物事を難しくすることはないが、執行部の提案されるものがすべて問題なく可決されている真庭市議会の状況は、何の問題もないものなのであろうか。執行部との適度の緊張感は大事と思う。議会が決議して物事が実行されて行っているんだという自覚できる姿を作りたい。

セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」

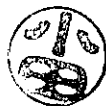
議選監査委員と議会との連携のあり方を考える必要がある。監査委員は守秘義務があり、監査事務局の了解のもとに報告する形でないと議会への報告も難しい。しかしながら、議選監査委員と議会の連携については検討していく必要がある。

議選監査委員については総じて評判が悪いという話もあり、議選監査委員の必要性についても議論は必要（議選監査委員を廃止している自治体もある）

議選監査委員を廃止するしないということは、市民にとっても大変大事なことであるので、決定するにあたっての要件は、議員の3分の2以上の賛成をもって決めるというような規則があるのが好ましいとのことであった。

議長 副議長 局長 係長 係 回 覧

様式第2号



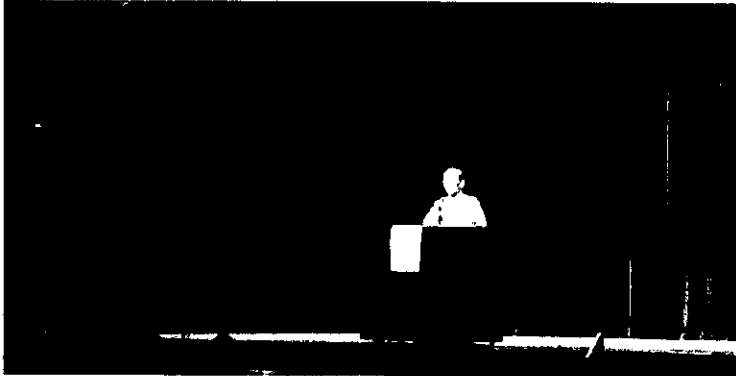
報 告 書

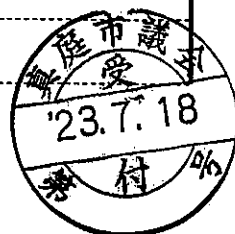
令和5年7月18日

真庭市議会議員 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 大月 説子 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時
	自 令和 5 年 7 月 5 日 (午前・午後) 13 時 00 分 至 令和 5 年 7 月 6 日 (午前・午後) 16 時 00 分
2	場 所 早稲田大学大隅講堂
3	用 件 全国地方議会サミット2023
4	概 要
	13:00 開会 (7月5日の概要)
	13:08 基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事 テーマ「激動する時代に対応する議会を実装せよ」
	デジタル革命が起こっている。 これまでの延長線上では解決 できない。革命期を誰が乗り切 るか。先進事例を参考にして、 地方から変える、実践する。そ のためには、議会を変える必要 がある。 「地方から政治を変える」 
	13:30 特別講演 河野太郎 デジタル大臣



テーマ「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」

ビデオメッセージ

人口減少・高齢化、ぬくもりのある社会をつくるためには、人間がやらないといけないことに人が集中する。この手段の一つがデジタル化。熊本県では、住民票の窓口交付が200円であったが、コンビニ交付で20円にしたところ7割がコンビニ交付になり、職員の業務改善につながった。今は、デジタル交付金で対応できているが将来は？デジタル化の恩恵は、移動が難しい人が受けられるようにする視点が大事。

13:50 セッション「デジタルで変わる自治体・政策」

佐藤泰格 都城市総合政策部デジタル統括課

「マイナンバーカード交付率9割越え 都城市のデジタル戦略」

寒川孝之 横須賀市デジタル・ガバナンス推進室

「ChatGPT自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」

森いずみ 県立長野図書館長

「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館『デジ図書信州』」

林剛史 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター

「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」



15:25 セッション「オンラインとデジタルを活かす」

河村和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

「議会デジタル化の必要性ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか」

金澤克仁 取手市議会議長

「デジタル・オンライン活用最前線AI活用による議会の視覚化と市民参画」

財前貴玄 Gromホールディングスまちだん担当

「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会DX実証実験より」

16:45 セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「Society5.0時代の新しい民主主義」

五十嵐立青 つくば市長

「つくば市が取り組む選挙DXインターネット投票実証実験より」

つくば市長より、「つくば市が取り組む選挙DXインターネット投票実証実験の報告がありました。投票改革にチャレンジすることが素晴らしいと感じた。」

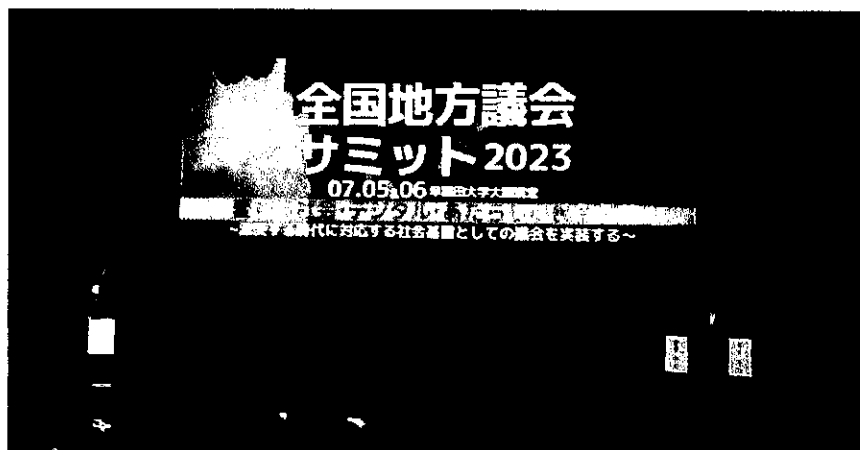


山本直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長

「選挙後（無投票選挙）も選挙公報を有権者へ届ける取り組み」

川久保皆実 つくば市議会議員

「新しいスタイルの選挙運動を全国に！『選挙チェンジチャレンジの会』の取り組み」



18:00 閉会

4 概要（7月6日）

10:00 開会

10:02 鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

北川正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事

片山善博 大正大学教授 元総務大臣

廣瀬克哉 法政大学総長

廣瀬先生司会

地域とつながっている議員が、ディスコミュニケーションを打破して、議会改革のプロセスを地域住民にロジカルに発信する、そのためにDXを活用する。



北川先生

1993年に地方分権推進法が成立し、2002年に地方分権改革が行われた。「地域のことは地域の皆さんが責任をもって決めていく」これが地方自治の考え方。誰が決めるのか？住民の代表であり議決権を持つ議員が議会を機能させる。分権改革は議会とともに。2030年に向けて自分たちの地域をどう作っていくか？デジタルは活用するもので、自分たちのまちを自分たちで作るときの一つのツールである。

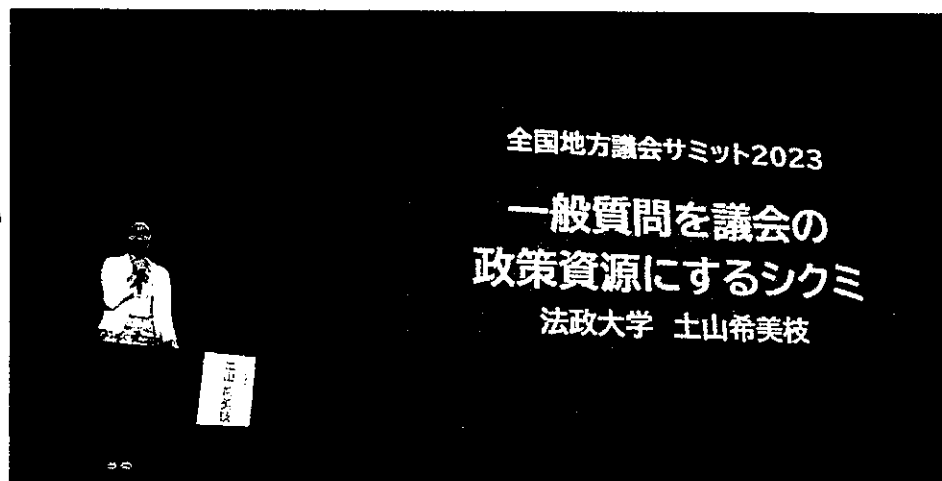
片山先生

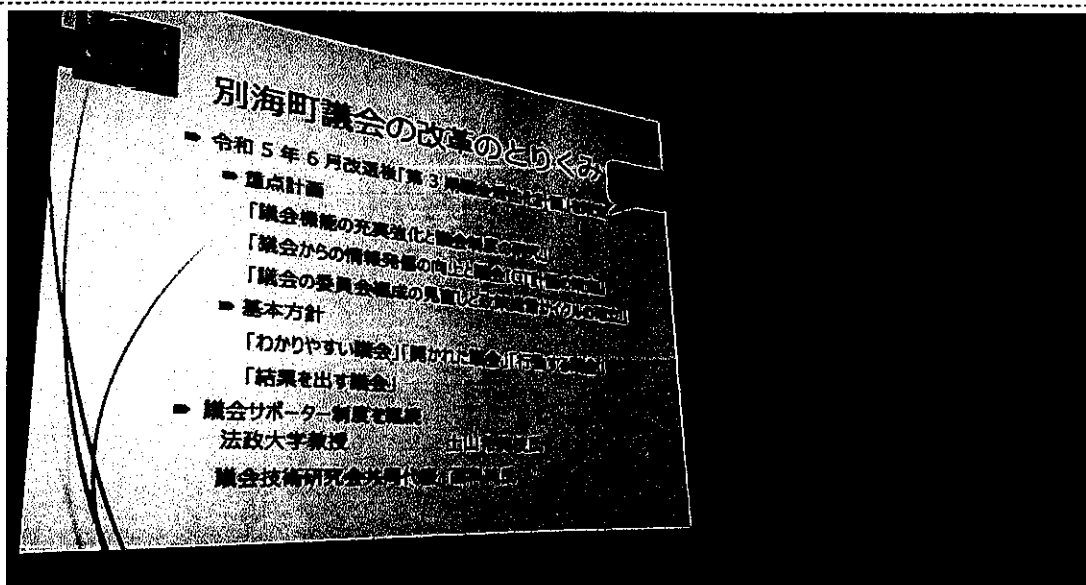
最近の例でいうと、コロナワクチン接種もマイナンバーカードの交付も国が決めるが進め方は地域任せ、国と自治体は対等であるべき。押し返す力を回復してほしい。地方分権を進める上での新しい自治体の主体者は議員だというプライドを持って取り組んでほしい。地域から声（改革事例）を発信していくことが大切。

11:05 セッション「政策議会の一般質問」

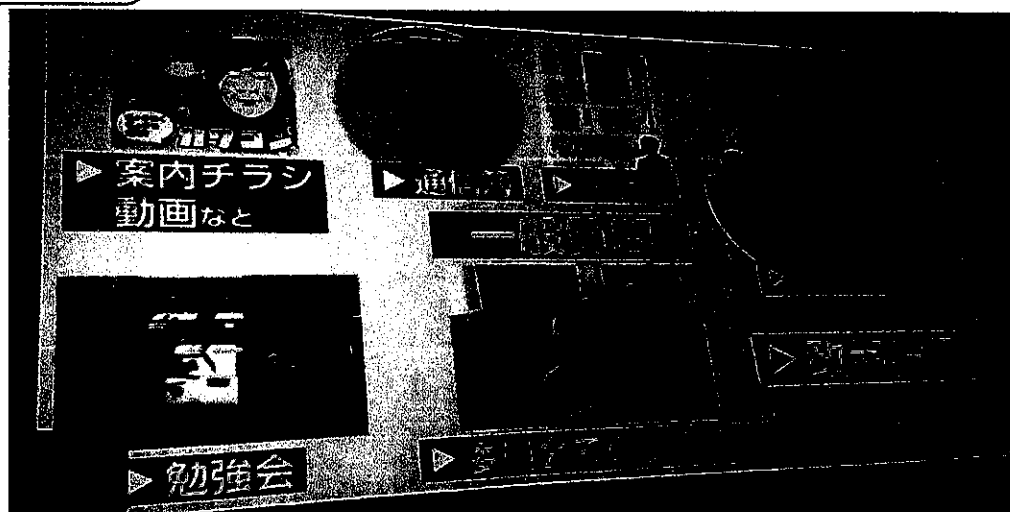
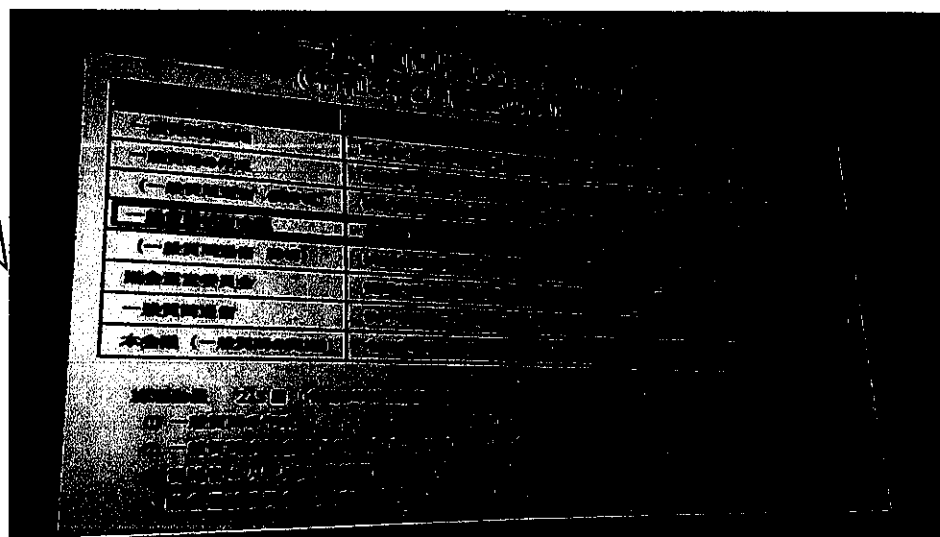
土山希美枝	法政大学教授
西原 浩	別海町議会議長
青野 敏	鷹栖町議会議員
片山兵衛	鷹栖町議会議員

一般質問を議会の政策資源にしていくためには、質問力を上げる努力が必要。そのために工夫している議会を紹介する。





北海道別海町
西原浩様から、
議会改革のう
ちの、一般質問
検討会議につ
いて報告があ
りました。議運
で確認する前
に、議員間で討
議と意見交換
をするとのこ



北海道鷹栖町議会では、一般質問への理解を深めてもらうためにガイドブックの作成や議会広報の工夫をしている。また、市民からの評価を、議員ごとに「にこちゃんシール」を傍聴者に貼ってもらい、その多さで評価をしている。議員ごとの一般質問の内容や質問の仕方などを、市民からの評価を得るという取り組みは学ぶべき視点と思いまし

た。

一般質問は、誰のためか？何のためにするのか？問題を定義して、議員としての意見を述べる場であることに違いはないが、その成果は自己の意見の主張ではなく、市民の生活支援や幸せの追求のためである。真庭市議会の多くが、執行部への要望や自己主張の場に終わってはいないだろうか？あるいは、何が言いたいのか分からないこともある。

幸運にも、昨年土山先生に一般質問の事後指導をしていただいた時の感想と、成果について3分程度で発言する時間がいただけた。改めて、一般質問の論点を整理する、そのためにはあらゆる角度からの情報収集（事実確認）、何を変えたいのか、どうなりたいのか、整理して質問に立つ必要性を再確認した。次に活かしていきたい。

13：05 セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」

江藤俊昭 大正大学教授

「政策サイクルと政策財務」

川上文浩 可児市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」

谷川 宏 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長

「缶さ事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」

子籠敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員を活かす」

14：40 セッション「政策つよい議会をつくる」

菅原由和 奥州市議会議員

「政策決議提案とガイドライン」

清水克士 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」

津軽石昭彦 関東学院大学教授

「議会における政策づくりと政策法務」

15：45 宣言・総括

16：00 閉会

感想及び提案

ハードスケジュールではありましたがこの研修会に参加して、①常に議会改革を進めること。②DXの効果的な活用。③議会改革への市民参加の必要性。を強く感じました。①については、地方分権が進み、政策と予算は国や県から降りてくるが、どう進めるかは地方に任せられている事業が増えている。例えば、新型コロナワクチン接種、マイナンバーカードの推進等がそうであった。今後子ども家庭庁ができると、同様な状況が生まれることは十分予測できる。北川先生が言われるように、市民の代表である議員が市民目線で、監査し発言していかなければならない。地方分権が進んでいることを認識して、政策提案議会、監査機能を発揮する議会になる必要性を強く感じた。

次に、DXの推進である。どこにDXを入れて改革を進めたらどんな成果が出るかは、専

門家の力を借りないと進められないとも感じた。更には、DXを推進して改革を進めようとしても、そう簡単には人の意識や行動は変わらないであろう。このことは、執行部の職員にも迫っている問題だと思われる。昨年福祉課がDXを推進したが、何がどう変わったか、市民にとって成果はどうか、検証する必要性を感じた。まずはICT化推進部会が旗振り役となって、議会改革が必要だと思う議員を増やして、6割以上になれば何から取り組むのか、ステップバイステップで考えていく必要がある。改革を進めようとする、抵抗勢力が生じるのが常であるから、それに配慮しながら進める。

「議員は何をしているのかわからない」という声を確かによく聞く。しかし時には、「真庭いきいきテレビでよく見る。頑張ってるね。応援しているよ。」と、どこのだれか分からない方から声をかけていただくことがあり、嬉しくも身が引き締まる思いになる。議会の取り組みを市民に伝わる仕組みをつくることには終わりはない。常に、情報発信をしていくことが必要であると同時に、参加していただく（例：モニター制度など）仕組みづくりも必要と思います。更に、議会改革は議員だけでは進まない、議会事務局との二足の草鞋を履くことが重要と思いました。

最後に、議選監査委員の役割である。真庭市議会も監査委員会を出しているが、監査委員がどのような役割をしているのか見えないのも実際。それどころか、決算審査の資料が全く違っていただけに気づかない、その前の年は施設使用料の徴収ミス、このところ監査ミスが続いた。真庭市議会においても、議選監査委員の役割の再認識が必要なのではと、この研修を受けて感じました。

報 告 書

令和 5 年 7 月 13 日
平成 27 年 7 月 13 日

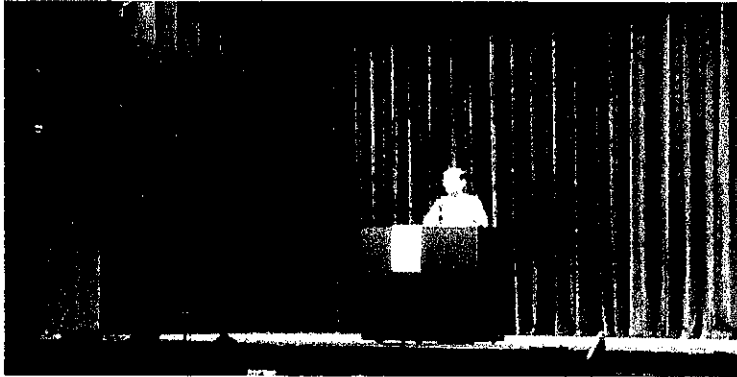
真庭市議会議長

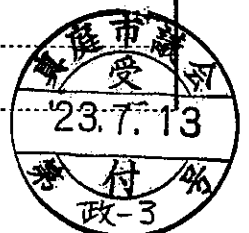
殿

報告者 真庭市議会議員 氏名

森田 敏久

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時
	自 令和 5 年 7 月 5 日 (午前・午後) 13 時 00 分 至 令和 5 年 7 月 6 日 (午前・午後) 16 時 00 分
2	場 所 早稲田大学大隅講堂
3	用 件 全国地方議会サミット2023
4	概 要
	13:00 開会 (7月5日の概要)
	13:08 基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事 テーマ「激動する時代に対応する議会を実装せよ」
	
	13:30 特別講演 河野太郎 デジタル大臣



テーマ「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」

13:50 セッション「デジタルで変わる自治体・政策」

佐藤泰格 都城市総合政策部デジタル統括課

「マイナンバーカード交付率9割越え 都城市のデジタル戦略」

寒川孝之 横須賀市デジタル・ガバナンス推進室

「ChatGPT自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」

森いずみ 県立長野図書館長

「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館『デジ図書館信州』」

林剛史 株式会社メディアドウ 電子図書館推進センター

「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」



15:25 セッション「オンラインとデジタルを活かす」

河村和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

「議会デジタル化の必要性ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか」

金澤克仁 取手市議会議長

「デジタル・オンライン活用最前線AI活用による議会の視覚化と市民参画」

財前貴玄 Gromホールディングスまちだん担当

「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会DX実証実験より」

16:45 セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「Society5.0時代の新しい民主主義」

五十嵐立青 つくば市長

「つくば市が取り組む選挙DXインターネット投票実証実験より」

山本直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長

「選挙後（無投票選挙）も選挙公報を有権者へ届ける取り組み」

川久保皆実 つくば市議会議員

「新しいスタイルの選挙運動を全国に！『選挙チェンジチャレンジの会』の取り組み」



18：00 閉会

4 概要（7月6日）

10：00 開会

10：02 鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

北川正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事

片山善博 大正大学教授 元総務大臣

廣瀬克哉 法政大学総長



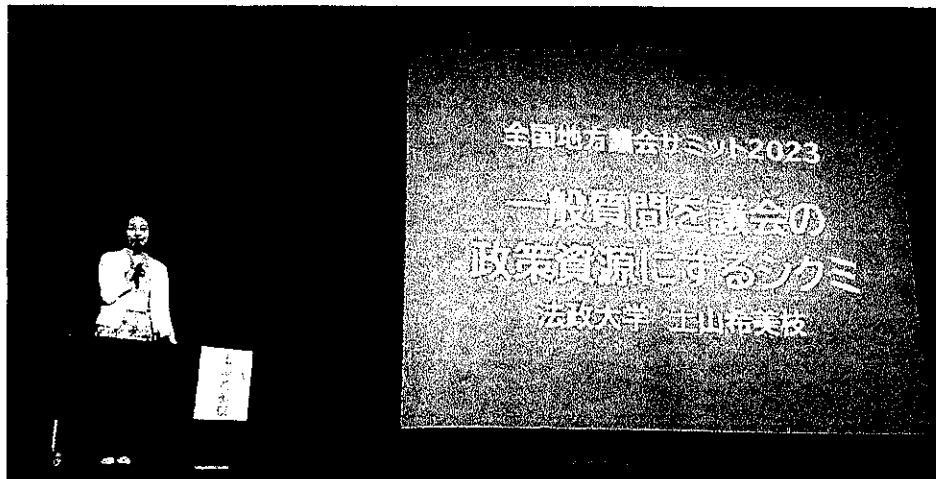
11：05 セッション「政策議会の一般質問」

土山希美枝 法政大学教授

西原 浩 別海町議会議長

青野 敏

片山兵衛 鷹栖町議会議員



13:05 セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」

江藤俊昭 大正大学教授

「政策サイクルと政策財務」

川上文浩 可児市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」

谷川 宏 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長

「缶さ事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」

子籠敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員を活かす」

14:40 セッション「政策つよい議会をつくる」

菅原由和 奥州市議会議員

「政策決議提案とガイドライン」

清水克士 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」

津軽石昭彦 関東学院大学教授

「議会における政策づくりと政策法務」

15:45 宣言・総括

16:00 閉会

全国地方議会サミット 2023 研修報告

① デジタルで変わる自治体・政策

宮崎県都城市総合政策部長デジタル統括課によると12.6億円かけ令和5年5月現在でマイナンバー交付率96%を達成。自治体経営の3大要素を人材育成(ヒト)組織活性化(モノ)政策推進(カネ)と捉えてすべては人材(ヒト)が最も重要な経営資源という考えから30項目のフィロソフィによる人材育成を行った。マイナンバーカードの普及促進の戦略としては1 申請しやすい環境の整備 2 利活用の促進 3 効果的な広報を行ったとのことである。普及の成功によりデジタル関連新規事業が令和英和3年から5年にかけて当初の27から94に増加したとのことである。それによりデジタル化の恩恵を市民に届けることが重要である。デジタル化は目的ではなく手段であり非効率をデジタル化しない、デジタル化を加速させるには市長(最高デジタル責任者)デジタル統括本部(部長級)総合政策部デジタル統括課が重要な要素である。またデジタル統括課にデジタル化の進まない土木・農業分野をテコ入れするため土木技師を配置すべきだ。以上の研修を受け真庭市に足りないところは見習うべきと考えた

② Chat GPTの導入について・・・横須賀市経営企画部デジタルガバメント推進室

横須賀市では人口減少により20年後職員が4分の3その先2分の1との試算があり効率的な行政運営が必然となり2020年4月1日デジタルガバメント推進室を設置した。コロナ対策で保健所業務がひっ迫し市役所と市役所が離れていたためL o G oチャットを導入した。セキュリティ面での不安解消のため1API経由の場合は入力情報は学習には使われない 2 入力情報を学習に使われないようオプトアウト申請 3 職員に機密情報や個人情報を入力しないよう指導と3つの対策を行い ChatGPT 導入のセキュリティ面での不安を解消し導入を行なった。真庭市においても導入の議論があるが横須賀市でも一定の利用率があり、業務効率向上の実感継続利用意向も高いというアンケート結果が出ている。真庭市においても安全性を考慮しながら効果的な導入の検討も必要があるのではないかと考えた。

③ 全国初県内全77市町村との共同電子図書館デジとしょ信州

デジとしょ信州とは公共図書館による電子書籍の貸し出しサービスでありメリットとして365日24時間利用でき文字拡大またオーディオブックは耳で聞けるなど障がい者にも優しいサービスである。公共図書館は「誰も」が必要な情報にアクセスすることを通じて、民主的な社会の実現・地域の営みに参画できるよう、技術の進展に適應しながら、住民生活の向上に貢献する公共サービスとの説明を受けた。

自治体単独では難しい面もあるので自治体間連携が必要になるが取り組む価値があるのではないかと考える。

④ デジタル図書館とアクセシブルライブラリー・・・(株)メディアドゥ

電子書籍や資料を Web サイトやアプリ上で利用できるシステムで初期費用100万円月1万円から利用できる。2023年501自治体が電子図書館を導入している。デジ

タル図書館の意義は出版物に触れる機会を増やし読書人口を増やすことであり図書館に置き換わるものではない。視聴覚障害の人に多くの選択肢があってもよいのではないかと説明を受けた。

⑤ 議会デジタル化の必要性 (Chat GPTなどの生成系AIとどう向き合うか)

民間のデジタル化が進めば進むほどデジタルに取り組まなければ信頼評価は下がっていく。できる人に合わせると反発が起きやすくできない人に合わせるといつまでたっても進まない。一気に進めないで自動化・データ活用しオープンデータ、オープンドキュメントを使い政策に活かしアナログもデジタルもという発想が必要。議員も多様性であり出席できる環境を整える。住民もデジタルでなければ声が伝わらない人もいる。生成系AIと向き合うとき作られた文章が正確とは限らない。議会質問等注意が必要

⑥ デジタルオンライン活用最前線・AI活用による議会の視覚化と市民参画

(取手市議会議長 金澤克仁)

取手市議会はマニフェスト研究会により2年連続1位を獲得している。公式の委員会の採決までの完全オンライン化、オンライン事前説明による議案の事前理解、オンラインを併用した意見交換会、常任委員会での複数市とつながるハイブリッド型現地視察、他自治体からのオンライン視察の受け入れ等様々な取り組みが行われている。また本会議・委員会発言内容のリアルタイム字幕表示機能の検証・文字データ要約関連機能の検証も行っている。オンライン併用による市民との意見交換会など未来型議会の創造と発展に学ぶことは多いと感じた。

⑦ まちだん デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会 DX 実証実験より

(Gcom ホールディングス株式会社まちだん担当)

デジタルを活用して議会と住民の距離を縮めることが目的でつくられ「まちだん」とはスマートフォンやパソコンを利用して議会と市民が双方向にコミュニケーションが取れるものである。学生との意見交換、討論、市民公開開始一般質問後の30秒感想、議会報告会ライブ配信などが行われ今までより市民は議員に相談しやすくなった。相談件数など4倍に増え議会も8倍の視聴を獲得するなど多くの効果があった。

⑧ Society 5.0時代新しい民主主義～つくば市議会・芽室町選管～

2003年より早稲田大学マニフェスト研究所が目指してきた選挙は、ひたすら握手して「お願いします」の連呼する選挙から候補者が「政策をはっきり示し」有権者がマニフェストを読み比べて選択する選挙である。例えば、人工知能の融合により家庭内でロボットがマニフェストを解説し候補者選びをサポートし投票率の向上・民意の計測を行う。また選挙開票の迅速化を図り投票総数10満票以下のところは30分以内で終了させだれでもどこからでも投票できるようにすること御目指している。

芽室町の取り組み 町議会選挙が無投票になり選挙公報が発行されなかった。選挙管理委員会では各候補者の信条政策等を拡大印刷の上公表した。

長野県豊丘町も同様で議会だよりの号外という事で発行した。

つくば市 人口 255 千人で毎年 5 千人増加している。また研究者が約 2 万人であるが 6 地区のうち出生率 2.24 高齢化率 4.4% の地区もあれば出生率 0.9 高齢化率 37.9% と都市と郊外の 2 極化が進んでいる。また外国人も約 150 か国 1.2 万人が居住している。大型商業施設の撤退等都市力が低下している。そのようなつくば市インターネット投票、学校での体調管理のデジタル化、モビリティロボットの活用、児童配送ロボットによる荷物配送サービス、分身ロボット等取り組んできたが様々な規制で実現しなかったものがある。つくばスーパーサイエンスシティ構想として 6 つの分野がありインターネット投票もその一つであるが模擬投票など行ってきたが規制の特例措置案と技術的対策により実現していない

⑨ 選挙チェンジチャレンジの会の取り組み つくば市議会議員川久保皆実

川久保皆実氏は選挙期日の約 3 か月前につくば市へコロナ移住し子育て中の当事者として公立保育制度の問題意識から出馬を決意したが企業法務の弁護士・IT ベンチャー企業の取締役・二児の母と 3 足の草鞋を履いていた。仕事と育児を犠牲にしない・他人のお金に頼らない・既存のやり方にとらわれないの 3 つの原則をつま証実験しウェイブサイト・動画・リーフレットで政策を訴え選挙運動期間中はたすきをかけごみ拾いとピクニックを行い 41 人中 3 位当選を果たした。多様な当事者の声が反映される政治を地方から実現するため新しいスタイルの選挙運動を全国に展開するため選挙チェンジチャレンジの会。を設立し月一回無料オンライン相談会を実施し 50 名が参加し 22 年 3 名 23 年 20 人が地方選挙に当選している。

⑩ 議選監査委員の今までとこれから

監査委員は正副議長経験者の次の椅子（ポジション）等しばしば揶揄される。議会に監査結果を生かす政策サイクルが存在しないのが問題であり議会と監査委員の連携は議会改革ではなく住民福祉向上を目的とした議会機能の充実である。

⑪ 奥州市議会における政策決議提案とガイドライン

議長就任希望者の所信表明は議場で行われ議長マニフェストにまとめ工程表も公表された。前議長副議長の所信表明で政策提言に加速され政策立案には時間がかかり政策提言には拘束力がないため決議で重み実現を担保に政策決議提案がなされ議場で提出されることになった。政策提言がなかなか実行されない当市では参考になる場所である。また一般質問・委員会調査で是正できる場所も特徴である。毎年いくつかの施策が提言され 20 年 2 月策定の計画に於いて 15 施策の提言が採用された。

議長

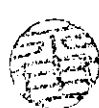
副議長

局長

係長

係

回覧



様式第2号

報 告 書

令和 5 年 7 月 20 日

真庭市議会議長 小 田 康 文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 小 田 康 文



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和 5 年 7 月 5 日 (午前・午後) 13 時 00 分 至 令和 5 年 7 月 6 日 (午前・午後) 16 時 00 分
2	場 所	早稲田大学大隅講堂
3	用 件	全国地方議会サミット2023
4	概 要	13:00 開会 (7月5日の概要) 13:08 基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事 テーマ「激動する時代に対応する議会を実装せよ」 
		13:30 特別講演 河野太郎 デジタル大臣



テーマ「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」

13:50 セッション「デジタルで変わる自治体・政策」

佐藤泰格 都城市総合政策部デジタル統括課

「マイナンバーカード交付率9割越え 都城市のデジタル戦略」

寒川孝之 横須賀市デジタル・ガバナンス推進室

「ChatGPT自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」

森いずみ 県立長野図書館長

「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館『デジ図書館信州』」

林剛史 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター

「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」



15:25 セッション「オンラインとデジタルを活かす」

河村和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

「議会デジタル化の必要性ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか」

金澤克仁 取手市議会議員

「デジタル・オンライン活用最前線AI活用による議会の視覚化と市民参画」

財前貴玄 Gromホールディングスまちだん担当

「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会DX実証実験より」

16:45 セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「Society5.0時代の新しい民主主義」

五十嵐立青 つくば市長

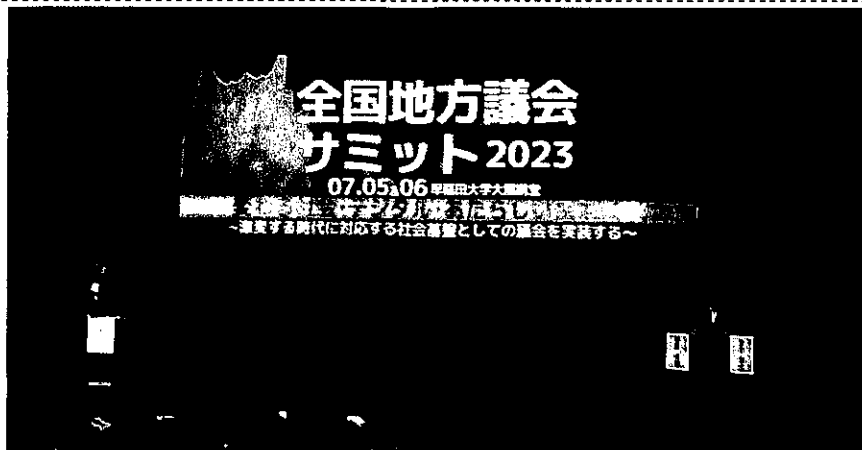
「つくば市が取り組む選挙DXインターネット投票実証実験より」

山本直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長

「選挙後（無投票選挙）も選挙公報を有権者へ届ける取り組み」

川久保皆実 つくば市議会議員

「新しいスタイルの選挙運動を全国に！『選挙チェンジチャレンジの会』の取り組み」



18：00 閉会

4 概要（7月6日）

10：00 開会

10：02 鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

北川正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事

片山善博 大正大学教授 元総務大臣

廣瀬克哉 法政大学総長



11：05 セッション「政策議会の一般質問」

土山希美枝 法政大学教授

西原 浩 別海町議会議長

青野 敏

片山兵衛 鷹栖町議会議員

基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事

テーマ「激動する時代に対応する議会を実装せよ」

「議会の役割は民意の反映であり、執行部の追認機関ではない事を意識すべし」との言はその通りであると実感したが、なかなか真庭市議会ではそうはっていないと思った。何か有る度に「議会軽視だ」「我々は住民代表だ」とその存在意義を口で言っているが、それ以上に何かをすることは誠に億劫であり、やるとしても渋々実行している感がありありである。

議員が担っている役割を市民に対して明らかにし、着実に実行に移して市民に報告することが大事であると再認識させられた。

特別講演 河野太郎 デジタル大臣

テーマ「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」

デジタルで変わる地方が既に存在する。熊本市では住民票などの窓口交付手数料は 200 円で、コンビニ交付は 10 円である。これにより窓口交付を希望する市民は 30%弱まで減少した。AI やデジタル技術で代用できることは機械にやらせ、人間がやるべきことを人間がやり、余ったヒューマンリソースは他の業務に配置換えすることで職員数の最適化が図れる。デジタルのメリット 人を活かす配置ができることである。真庭市でも AI やデジタル技術導入のイニシャルコストとランニングコストを人による窓口交付と厳密に比較して、早急に検討する必要があると思われる。

セッション「オンラインとデジタルを活かす」

河村和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

「議会デジタル化の必要性 ChatGPT などの生成系 AI とどう向き合うか」

議会のデジタル化の必要性が最初に感じられたのは 2011 年の震災がきっかけだった。宮城県議会は青空議会を開会し、被災した宮城県内の様々な課題に向き合った。地方議会とは土地（場所）に縛られている組織であり、密を前提に運営されている。このままでは想定外の事態が発生したときには初動が遅れ、時間の経過と共に対応しなければならない様々な課題に向き合うことは困難になることが予想される。

真庭市議会でも昨年度オンラインでの委員会開催マニュアルを策定し、既に実施されているが、その課題の拾い出し、検討、解決に向けた協議できていない。6 月に設置した議会活性化推進特別委員会内の ICT 化推進部会と活性化検証部会での協議、検討を願いたい。

またデジタル技術を駆使して住民と繋がる機会の創出をすべきであると思う。例えばオンライン会議システムを使用した住民との意見交換会、議会モニター制度、政策サポーター制度、住民が議員に意見する手段を設けるなど、検討すべき課題は山積している。各部会での活発な意見交換、協議を期待したい。

議員は有権者の代理人であるから、広く市民に議員が意見を披露するのはデジタルで行うべきである。そうすれば拡散が容易である。

現状、各議会がオンラインで使っているソフトは海外製ではないのか。セキュリティは大丈夫かという提議がなされ、ただ単にコストの面で選定するのではなく、いつ、何が有っても使用に耐えうるソフトについても真剣に考える必要があると考えさせられた。

金澤克仁 取手市議会議員

「デジタル・オンライン活用最前線 AI 活用による議会の視覚化と市民参画」

取手市議会では、本会議で採決までの完全オンライン化を実装している。執行部提出議案は YouTube によるオンライン事前説明を実施している。何度でも視聴し直し可能で、議案への理解が深まり、濃い内容の質疑がなされている。

またオンラインを併用するハイブリッド型の市民との意見交換会を開催している。オンラインで参加する市民は事前申し込み制で、オンラインだったから参加できたという声を貰い、広い世代の参加者の増加や、貴重な意見が聴取できた。

常任委員会でのハイブリット型視察も実施しており、低コスト、省時間、高頻度を可能としている。

本会議や常任委員会の様子を AI を使ったリアルタイム字幕配信で YouTube で実施しており、聴覚障がいのある市民や障がいとまでは言わなくても聞き取りにくさを感じている市民に、会議の内容を等しく届けている。

会議の見える化として、AI による会議録視覚化システムを導入し、ある議員が 1 年間に何を一番多く発言しているかを一目で分かるように視覚化し、公表している。また広報公聴のソリューションとして、GPT 技術による会議録の要約と公表をなるべく素早く行い、市民の議会に対する関心を繋いでいる。

まず取手市議会がどうしてここまで突き詰めて情報共有、市民参加が出来ているのかを改めて知りたいと思った。ここまでやれば確かに市民からの評価も高く、議会が親しみを持って貰えるだろうと言うことは容易に想像できるが、経費的なことも含めて果たして真庭市議会はどこまで追随できるか。一部議員から発せられる「もう（やらんでも）ええがな」の声をどのようにして乗り越えていくのか。昨年度、議会改革度全国 38 位という評価を頂いたが、更なる上位を目指すために解決しなければならない課題は多いと感じた。しかし、

今回全国地方議会サミット 2023 に参加した真庭市議会議員有志とタッグを組んで取り組んでいきたい。

セッション「一般質問を議会の政策資源にするシクミ」

土山希美枝 法政大学教授法政大学

一般質問はネタとタイミングが大事である。一般質問を議会で共有するメリットは政策の実現性である。いくら一般質問が良くてもそのまま放置したら政策は変わらない。だから市民は議会や議員が何をやっているのか分からないので、定数削減や報酬減額と言われる。あなたの議会は自治体政策をコントロールができているのか。行政は間違うことを恐れているから、表側で議論がなされていない。つまり皆で議論してよりよい政策になりましたとなっていないから、市民から分からないと言われている。分からない人（市民）にとっては、定数や報酬は議会や議員の評価の問題である。

自治体政策を間接制御するべきである。我が街の課題を議会という広場で議論し、課題や状況を明らかにすることが大事である。

民意を反映するためには一般質問を議会全体のものとして捉えて共有し、これはというものは常任委員会で協議し、政策提言に繋げるべきである。そうすることで市民から議会の役割や存在意義が理解されるはずである。

真庭市議会では常任委員会毎に市内各種団体等と意見交換実施して課題を見つけ、議論を重ねて政策提言に繋げると言う手段を採用している。しかし新たに各議員が実施する一般質問を議員全員で共有し、これはと言うものをピックアップして常任委員会に割り振り、そこで議論を重ねて政策提言に繋げると言う手段を採用することが民意の反映に繋がると言うことが理解できた。また一般質問通告書を議長宛に提出した後に、議員全員で1問ずつ取り上げて議論し、ブラッシュアップしたもので議場で実施するという手法も質問の質の向上という点で十分に検討に値すると思う。是非、真庭市議会にも導入すべきだと思う。

今回初めて全国地方議会サミット 2023 に参加した。会派の仲間の都合がもし悪ければ、一人でだけでも参加したいと思い参加した。全国から現地参加 680 名、オンライン参加 180 名という多数の参加であった。自らが所属する議会を何とかしたい、どうすべきか学びたいという熱い思いが溢れる、熱気に包まれた会場だった。多くの議会改革先進事例に触れ、市民に開かれた議会、市民に親しみを持って貰える議会とは何かを理解できたと思う。真庭市議会では今回参加した仲間達と共に、出来ることから一步步を進め、議会改革を進めていきたい。

議長 副議長 局長 係長 係 回 覧

様式第2号



報 告 書

令和5年 7月 18日

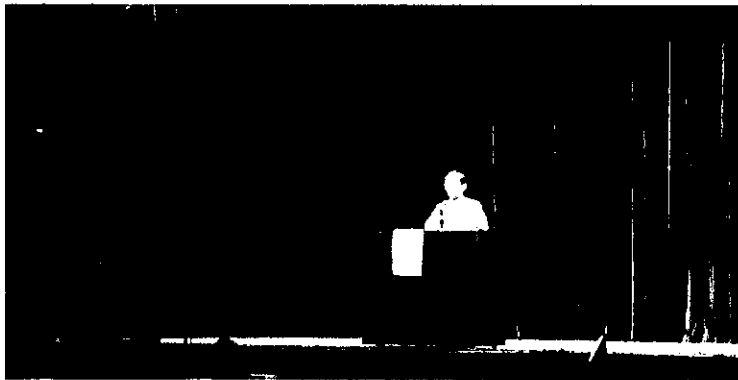
真庭市議会議長

殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 伊賀 基之



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和 5 年 7 月 5 日 (午前・午後) 13 時 00 分 至 令和 5 年 7 月 6 日 (午前・午後) 16 時 00 分
2	場 所	早稲田大学大隅講堂
3	用 件	全国地方議会サミット2023
4	概 要	13:00 開会 (7月5日の概要) 13:08 基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事 テーマ「激動する時代に対応する議会を実装せよ」  13:30 特別講演 河野太郎 デジタル大臣



テーマ「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」

13:50 セッション「デジタルで変わる自治体・政策」

佐藤泰格 都城市総合政策部デジタル統括課

「マイナンバーカード交付率9割越え 都城市のデジタル戦略」

寒川孝之 横須賀市デジタル・ガバナンス推進室

「ChatGPT自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」

森いずみ 県立長野図書館長

「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館『デジ図書館信州』」

林剛史 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター

「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」



15:25 セッション「オンラインとデジタルを活かす」

河村和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

「議会デジタル化の必要性ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか」

金澤克仁 取手市議会議員

「デジタル・オンライン活用最前線AI活用による議会の視覚化と市民参画」

財前貴玄 Gromホールディングスまちだん担当

「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会DX実証実験より」

16:45 セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「Society5.0時代の新しい民主主義」

五十嵐立青 つくば市長

「つくば市が取り組む選挙DXインターネット投票実証実験より」

山本直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長

「選挙後（無投票選挙）も選挙公報を有権者へ届ける取り組み」

川久保皆実 つくば市議会議員

「新しいスタイルの選挙運動を全国に！『選挙チェンジチャレンジの会』の取り組み」



18:00 閉会

4 概要（7月6日）

10:00 開会

10:02 鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

北川正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事

片山善博 大正大学教授 元総務大臣

廣瀬克哉 法政大学総長



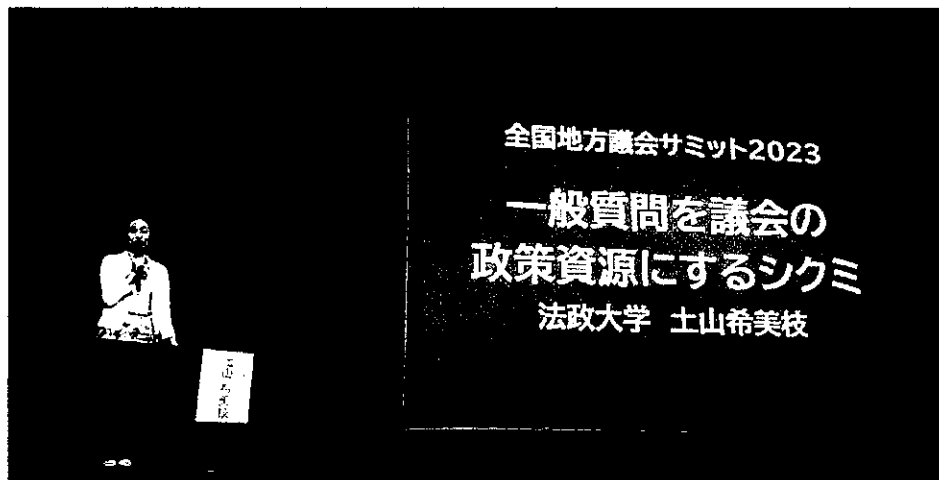
11:05 セッション「政策議会の一般質問」

土山希美枝 法政大学教授

西原 浩 別海町議会議員

青野 敏

片山兵衛 鷹栖町議会議員



13:05 セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」

江藤俊昭 大正大学教授

「政策サイクルと政策財務」

川上文浩 可児市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」

谷川 宏 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長

「缶さ事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」

子籠敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員を活かす」

14:40 セッション「政策つよい議会をつくる」

菅原由和 奥州市議会議員

「政策決議提案とガイドライン」

清水克士 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」

津軽石昭彦 関東学院大学教授

「議会における政策づくりと政策法務」

15:45 宣言・総括

16:00 閉会

1日目

① 基調講演 北川正恭氏

- ・成熟した社会としての「地方分権推進法」は実装化されているか
地方議員の役割 今までは監視と追認が中心
これからは、民意の反映が任務
政策の作成、条例を作る力が議員に必要となる
議会基本条例の制定は大きな力になっている
地方議会が地方を変える時代である
執行部と対等な力をもって政策論で競う
SDGs、気候変動に関する条約 → 地域の課題として取り組む
議会選出の監査委員の役割の重視

② 特別講演 河野太郎デジタル大臣

- 人口減少・少子化時代 → 人は人しかできないことをやる。人がやらなければならないことをやる。それ以外は人がやらなくてもよい。
そこに新しい行政の在り方がある。

③ セッション デジタルで変わる自治体・政策

- 県立長野図書館長の報告に学ぶことが多くありました
電子図書の貸し出し リアル図書館とデジタル図書館のかけあわせ
読書バリアフリー法への対応 → 音声自動読み上げサービスなど
いつでも、どこでも、誰もが、読書に親しむことのできる環境作り
図書カードへのパスワードの導入など

④ セッション オンラインとデジタルを活かす

- Chat GPT とどう向き合うか 議会デジタル化に活用の必要
議会のデジタル化 → AI 活用で同時文字表示を行い、議会の視覚化と市民参画が進んだという報告に学ぶことあり

⑤ セッション デジタルが拓く新しい民主主義

- Society5.0 時代の民主主義
つくば市のインターネット投票実証実験
芽室町の選挙公報のデジタル化、4年間選管のHPに掲載
つくば市議 デジタル化で新しい選挙運動 以上の点に学ぶことが多かった

2日目

⑥ 鼎談 地方分権の20年とこれからの10年を展望する

- 北川氏・・・地方分権推進法の背景
バブル経済の崩壊、ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊、東西冷戦の終結
新しい成熟社会を作ることが求められる（福祉社会、自立した市民の自治など）
今は特別交付金のバブル状態・・・地方からの人口減少対策の提案を
片山・・・国は細かな通達で地方自治体をしばるのではなく、大きく法律で方向を示す。
首長・・・地方債の活用がしやすくなる
自治体の反発力、抵抗力・・・ワクチン、マイナンバーカードの問題点
広瀬・・・地方議会の政策提案力の必要性 地方のことは地方議会で決める

- ⑦ セッション 政策議会の一般質問
一般質問をどう政策に結び付け、政策提案を向上させていくか
別海町・・・一般質問事前検討会の実施
 広報チラシの工夫
 町政モニターのシール評価
鷹栖町・・・広報チラシの工夫（関心をひくレイアウトや見出し、内容の示し方）
 傍聴ガイドブックの作成など
 いかに町民に関心を持ってもらうか → 意見を出してもらうきっかけ、政策
 を考えるきっかけになり、それが議会の財産になる
各地の事後検討会の実施の例も示された・・・学ぶことの多い内容であった
- ⑧ セッション 自治体監査と議選監査委員を活かす
可児市・・・議選監査委員が監視機能だけでなく、財政施策の課題の指摘や議会での財政政策
 の議論の中心になる 行政のかかりつけ医としての位置づけ
鎌倉市・・・監査委員事務局と議会の連携 財政政策にいかしていく
- ⑨ セッション 政策につよい議会をつくる
奥州市の政策決議提案の過程に興味深いものがあった。



様式第2号

報 告 書

令和5年7月20日

真庭市議会議員 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 黒川 愛



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和 5 年 7 月 5 日(午前・午後) 13 時 00 分 至 令和 5 年 7 月 6 日(午前・午後)16 時 00 分
2	場 所	早稲田大学大隅講堂
3	用 件	全国地方議会サミット 2023 変わる社会・デジタル・あたらしい民主主義 ～激変する時代に対応する社会基盤としての議会を実装する～
4	概 要	7 月 5 日(水)1 日目 13:00 開会 ● 基調講演 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事 「激動する時代に対応する議会を実装せよ」  非常に基調講演らしいお話で、2 日間の学びの方向性をしっかりとまとめて話された。 地方分権推進から、地方創生へと変化があったが、デジタルも大きな変化。過去を 1 度否定して、革命的に新しく始めることも必要。 法律オリエンティッドとミッションオリエンティッドと 2 つの機能(姿勢)があり、議会はミッションに基づき進めていく必要がある。 ・ 議会はチェック機能だけではなく、もっと創造的な役割も求められている。



● 特別講演 河野太郎 デジタル大臣

「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」



- ・ マイナンバーの深刻なトラブルが続いていることもあり、現職デジタル大臣の講演を期待していた方も多かったが、オンラインだった。
- ・ 『人が人に寄り添う、ぬくもりある社会のために』 デジタル化は待ったなしで進めていく。

● セッション「デジタルで変わる自治体・政策」

佐藤泰格 都城市総合政策部デジタル統括課

「マイナンバーカード交付率 9 割越え 都城市のデジタル戦略」

寒川孝之 横須賀市デジタル・ガバナンス推進室

「ChatGPT自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」

森いずみ 県立長野図書館長

「全国初 県内全 77 市町村との協働電子図書館『デジ図書信州』」

林剛史 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター

「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」



- ・ 自治体の先進地事例、自治体協働の取組み、民間業者のセッションは、4 組の組み合わせが素晴らしく、自治体におけるデジタルの可能性を学び、体感できた。サミットらしい内容だった。
- ・ マイナンバーやChatGPTについては、各自治体がどのように向き合い、活用していくのは大きな課題である。デジタル力だけではなく、課題に対して戦略的に挑戦できる場や人材の必要性を改めて感じた。

● セッション「オンラインとデジタルを活かす」

河村和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

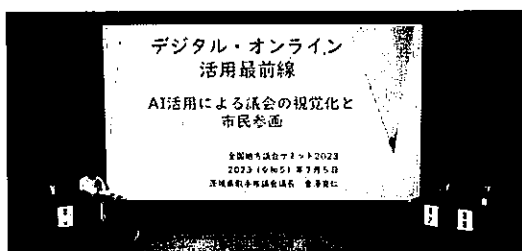
「議会デジタル化の必要性ChatGPTなどの生成系AIとどう向き合うか」

金澤克仁 取手市議会議長

「デジタル・オンライン活用最前線AI活用による議会の視覚化と市民参画」

財前貴玄 Gromホールディングスまちだん担当

「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会DX実証実験より」



- ・ セッション1つ目で『自治体』の取り組みを学んでいたことで、セッション2つ目の『議会』の取り組みが、よりスムーズに学ぶことができた。



金澤克仁 取手市議会議員

- ・ デジタルで様々な取り組みができるが、何を目的にデジタル活用するのか、目的意識をしっかりと持つ必要がある。
- ・ 議員間のデジタルディバイドも配慮が必要で、出来る議員ではなく、出来ない議員に会わせて、全体のボトムアップを図るのが良い。
- ・ ICT部会長として、取手市議長と事務局次長に挨拶ができた。視察に向けてスムーズな流れをつくることができ、良い機会だった。

● セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「Society5.0 時代の新しい民主主義」

五十嵐立青 つくば市長

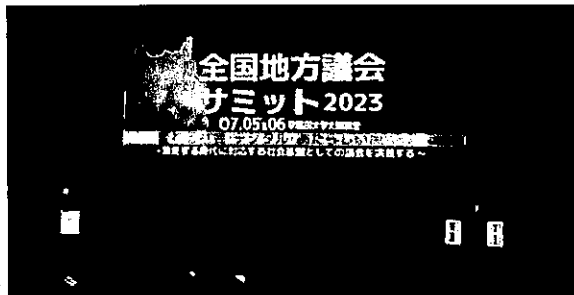
「つくば市が取り組む選挙DXインターネット投票実証実験より」

山本直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長

「選挙後(無投票選挙)も選挙公報を有権者へ届ける取り組み」

川久保皆実 つくば市議会議員

「新しいスタイルの選挙運動を全国に！『選挙チェンジチャレンジの会』の取り組み」



- ・ 様々な法律や規制があるなかで、どのようにデジタルを活用するのか、あたらしい民主主義のなかでデジタルを使ってどのような挑戦をするのか(実際にしているのか)、大変勉強になった。

1日目終了 18:00 閉会

7月6日(木)2日目 10:00 開会

● 鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

北川正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事

片山善博 大正大学教授 元総務大臣

廣瀬克哉 法政大学総長



- ・ 2日間、どのプログラムも内容が濃く、勉強になったが、この鼎談は格別だった
- ・ 地方分権法ができた時代背景、空気や熱気を含んだ話を、生で聴くことができた。今回、私にとって一番貴重な学びの時間になった。



- ・地方分権の目的、この20年で何を達成し、何ができなかったのか。急速なデジタル化や少子高齢化、世界における日本の状況含め、今後どうあるべきかを学び、考える必要がある。
- ・『国と地方のディスコミュニケーションが深まっている(広瀬氏)』『自治体の反発力、抵抗力が弱まっている。通達を押し返す力を早く回復して欲しい(片山氏)』『議員間討議を行い、しっかり審議を行っていくことで、出来レースではなく、緊張感のある議会づくりを。新しい自治の主権者は自分たちだとリードして欲しい(北川氏)』などの話があった。

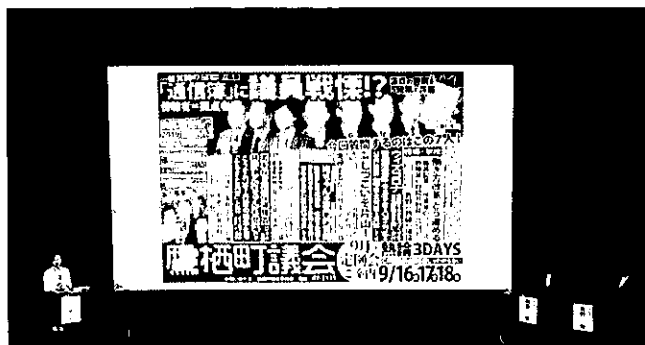
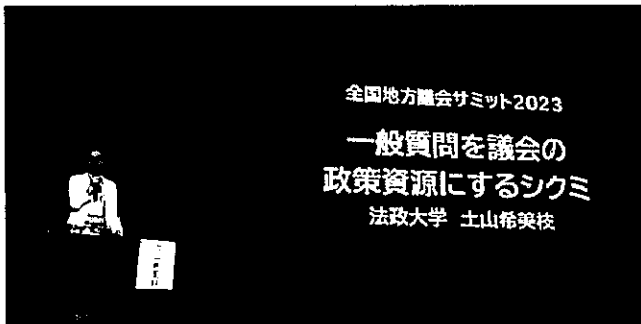
● セッション「政策議会の一般質問」

土山希美枝 法政大学教授

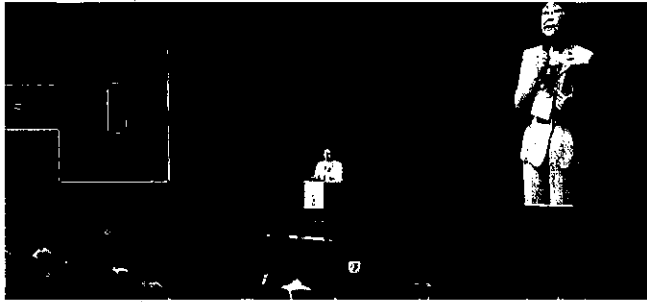
西原 浩 別海町議会議員

青野 敏 鷹栖町議会議員

片山兵衛 鷹栖町議会議員(オンライン)



- ・土山先生の講演は、何度か聞いているが、毎回素晴らしく、毎回得るものが少し違う。
- ・『結論を左右しないと議論は意味がない。ネタとタイミングの勝負。』と話された。議論を深めることで満足してはいけないことを改めて学んだ。
- ・『我がまちの争点』をしっかりと考え、絞り込み、みんなの問題として取り組まないといけない。
- ・中吊り広告風の議会案内で、全国的に話題になった鷹栖町議会。実際の取り組み、状況を聴くことが出来た。中吊りだけでなく、様々な方法で議会をPRし、町民参加の議会に向けて努力を惜しまず、尽力されていることに感銘を大変受けた。



・真庭市議会では土山先生の講演とワークショップを行ったことがある。取り組みや影響について、大月議員が客席側から発表を行った。大変分かりやすい内容で、多くの参加者が参考になったと思う。

● セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」

江藤俊昭 大正大学教授

「政策サイクルと政策財務」

川上文浩 可児市議会議員 議選監査委員

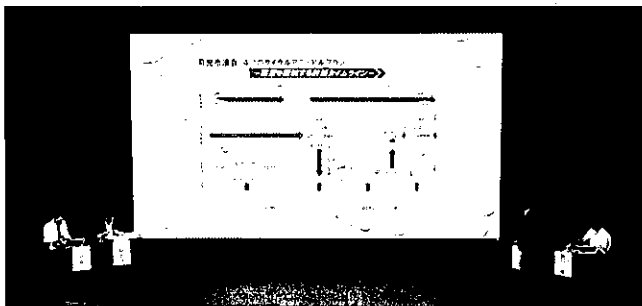
「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」

谷川 宏 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長

「監査事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」

子籠敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員を活かす」



・このセッションに出会えたことで、初めて議選監査委員を活かすことについて、考える機会を頂いた。チェック機能しか考えていなかった。自治体によって選ばれ方が違うことも初めて知った。全国のサミットでは、各議会の違いや良さを学べることもありがたい。

● セッション「政策につよい議会をつくる」

菅原由和 奥州市議会議員

「政策決議提案とガイドライン」

清水克士 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」

津軽石昭彦 関東学院大学教授

「議会における政策づくりと政策法務」



・2日間の締めくくりのプログラムとして、政策づくりのセッションが行われた。
・様々な取り組みがあるが、計画をつくり、ポイントごとに計画や進捗を点検し、チームとして進めていくことの大切さを改めて学んだ。

2日目 全日程終了 16:00 閉会